

神戸中通信



〒513-0038 鈴鹿市十宮町 1335 TEL 059-382-0305

神戸中学校北方から雪の鈴鹿山脈を望む

今回の「神戸中通信」は、「家庭学習の現状」「スクリーンタイムの現状」についてお伝えします。

HP では、神戸中通信をカラーで御覧いただけます。【神戸中 HP「QR コード」】



“家庭学習”の現状！

鈴鹿市教育委員会では、すべての小中学校で「家庭学習の定着」と「スクリーンタイムの減少」を働きかけています。

次の表は、鈴鹿市教育委員会が、「家庭学習の定着」について令和 4 年度定期的に生徒への調査を実施した結果です。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり 1 時間以上、勉強している生徒の割合（学習塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）

	1 学期			2 学期			1・2 学期比較	
	神戸中	鈴鹿市	比較	神戸中	鈴鹿市	比較	神戸中	鈴鹿市
1 年生	74.5	62.1	+12.4	47.3	50.4	-3.1	-27.2	-11.7
2 年生	65.1	55.8	+9.3	52.3	46.9	+5.4	-12.8	-8.9
3 年生	56.7	59.8	-3.1	76.8	79.2	-2.4	+20.1	+19.4

調査結果からは、次のような状況がうかがえます。

- **1 年生**では、1 学期には鈴鹿市のポイントを 12.4 ポイント上回り、家庭学習によく取り組んでいる状況にありました。

しかし、2 学期は 1 学期に比べ 27.2 ポイント減少し、鈴鹿市のポイントも 3.1 ポイント下回ることになり、**家庭学習に取り組む生徒の減少がとても心配**されます。

- **2 年生**では、1・2 学期ともに鈴鹿市のポイントを上回っており、全体的に家庭学習によく取り組んでいる状況にあります。

しかし、1 学期と比べ 2 学期は 12.8 ポイント減少するところとなり、鈴鹿市での 8.9 ポイント減少よりも高く、**家庭学習の定着に油断できない状況**がうかがえます。

- **3 年生**では、1・2 学期ともに鈴鹿市のポイントをわずかに下回る結果でした。

しかし、1 学期と比べ 2 学期は 20.1 ポイント増加し、大きく改善が見られました。さらに鈴鹿市の増加率（+19.4 ポイント）よりも高い割合となり、**家庭学習への意識向上や家庭学習の時間確保が大きく進んだ実態**がみられました。

“スクリーンタイム”の現状！

次の表は、鈴鹿市教育委員会が、「スクリーンタイムの減少」について令和 4 年度定点的に生徒への調査を実施した結果です。

普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、テレビゲームをしている生徒の割合
(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)

	1 学期			2 学期			1・2 学期比較	
	神戸中	鈴鹿市	比較	神戸中	鈴鹿市	比較	神戸中	鈴鹿市
1 年生	45.1	47.6	-2.5	34.8	34.3	+0.5	-10.3	-13.3
2 年生	60.5	46.9	+13.6	35.3	35.3	±0.0	-25.2	-11.6
3 年生	42.9	37.7	+5.2	28.8	30.5	-1.7	-14.1	-7.2

普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴をしている生徒の割合
(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)

	1 学期			2 学期			1・2 学期比較	
	神戸中	鈴鹿市	比較	神戸中	鈴鹿市	比較	神戸中	鈴鹿市
1 年生				36.8	32.8	+4.0		
2 年生				43.3	38.4	-4.9		
3 年生	44.7	38.9	+5.8	34.8	35.1	-0.2	-9.9	-3.8

調査結果からは、次のような状況がうかがえます。

- 神戸中学校生徒が、テレビゲームに費やしている時間は、すべての学年で 1 学期に比べて顕著に減少しています。

また、SNS や動画視聴に費やしている時間は、特に 2・3 年生で鈴鹿市のポイントを下回ったり、費やす時間の減少率が大きくなったりしています。

- 1 年生では、2 学期になりテレビゲームや SNS・動画視聴などに費やしている時間は、いずれも鈴鹿市のポイントよりも高い実態となっています。

特に、SNS・動画視聴などの使い方や視聴の仕方について改める必要性があります。

- 2 年生では、3 時間以上テレビゲームに費やす生徒の割合が、1 学期に比べると -25.2 ポイントと大きく改善されています。

また、SNS や動画視聴に費やす時間も鈴鹿市と比べ 4.9 ポイント低い結果となっており、引き続き“スクリーンタイムの減少”への意識を持った生活が望まれます。

- 3 年生では、2 学期のテレビゲームや SNS・動画視聴などに費やしている時間の減少率が -9.9 ポイントと高く、鈴鹿市の減少率 -3.8 ポイントを大きく上回る結果となりました。3 年生として、進路に向けた学習時間確保への意識や行動が、スクリーンタイムの減少に少なからずつながったものと考えられます。